

中国：GDP(2018年)

—18年のGDPは28年ぶり低水準—

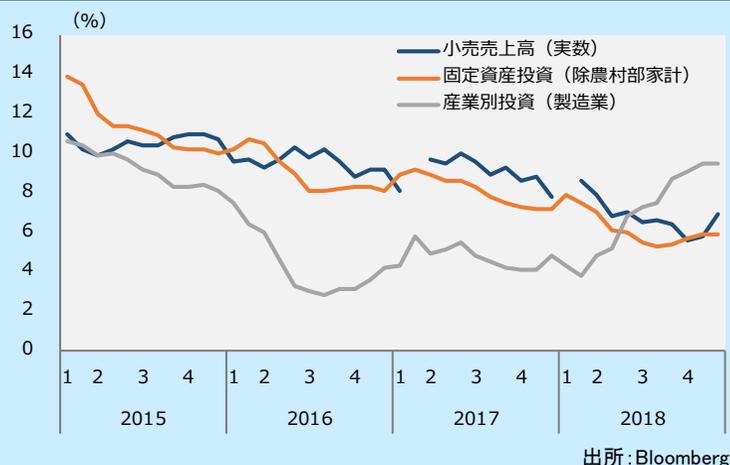
MRI Daily Economic Points

January 21, 2019

図表1 実質GDP成長率と産業別成長率



図表2 消費および投資成長率



評価ポイント

今回の結果

- 18年の中国のGDP成長率は+6.6%と、政府目標である「6.5%前後」は上回ったものの28年ぶりの低水準となった。
- また、18年10-12月期は対前年同期比で6.4%と、減速が顕著となった。第2次産業は18年7-9月期よりも加速した一方、第3次産業の伸びは弱まった。
- 消費および投資の動向を見ると、実質の小売売上高は18年12月には加速に転じたものの、17年10-12月期の水準と比べると依然減速傾向が続く。また固定資産投資(農村部家計を除く)も18年10-12月期に入って緩やかながら改善を見せているものの、17年10-12月期の水準と比べると減速傾向にある。投資の内訳では、特に製造業による寄与が大きく、18年10-12月期に入り加速している。

基調判断と今後の流れ

- 中国経済全体としては、投資から消費への構造転換の過程で経済が緩やかに減速する傾向にあることに加え、今後は米中貿易摩擦の影響で減速基調がさらに強まるものとみる。
- 先日公表された貿易統計では、内需の冷え込みを受けて18年12月の輸入が前年同月比7.6%減となった。今後どのような消費刺激策が発表されるかは注目される所だが、付加価値税や所得税の減税を行ってもなお消費の減速が止まらない現状をみるに、大規模な減税策でも消費の減速を和らげる程度の効果しか期待できない可能性も高い。
- 一方、投資面では、現在中央銀行が資金供給を増加していることもあり、半年程度のラグを経て投資が再び増加に転じる可能性がある。ただしこうして供給された資金が不動産に流れバブル懸念を再燃させ、将来の不良債権を増加させるリスクには警戒が必要だ。